

日本農業新聞

種子法廃止に危機感

主要農作物種子法(種子法)の廃止を受け、日本農業新聞が47都道府県に聞き取り調査した結果、同法に代わる独自の条例を既に制定したのは5県、さらに来年度施行に向けて準備を進めるのは5道県に上ることが分かった。その他、市町村の地方議会から種子法に関する意見書を受け取っている県議会は10県。米や麦、大豆の種子の安定供給への危機感は強く、条例化を求め動きが自治体で広がっている。

条例化・準備10道県

市町村制定へ意見書続々

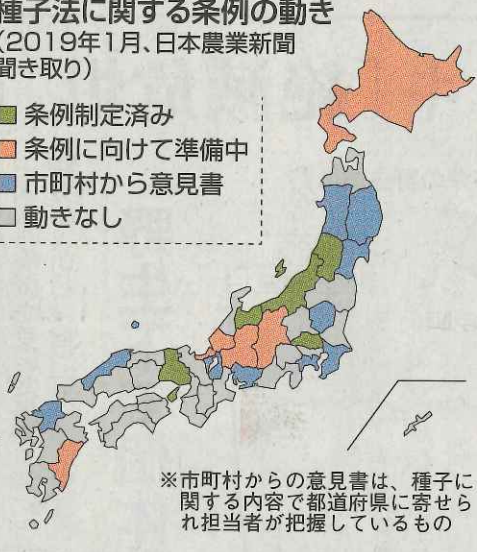
本紙調べ

条例を既に制定したのは北海道、は山形、埼玉、新潟、富山、兵庫。全国筆頭の種子産地である富山県は、1月に県主要農作物種子生産条例を施行した。種子生産者に安心して栽培を続けてもらう考えだ。来年度の施行に向けて準備をするのは北海道、福井、長野、岐阜、宮崎の5道県。福井県は種子の品種開発や生産に関する独自の条例の骨子案を示して2月4日までパブリックコメントを募集する。4月施行を目指す。政府は、米、麦、大豆

種子法に関する条例の動き(2019年1月、日本農業新聞聞き取り)

- 条例制定済み
- 条例に向けて準備中
- 市町村から意見書
- 動きなし

種子の生産と普及を都道府県に義務付けていた種子法を2018年4月1日で廃止した。公的機関中心の種子開発から民間参入を促す狙いだったが、行政の取り組みの後退や将来的な種子の高騰、外資系企業の独占など懸念する声が続出。農業県などが先行して条例化に踏み切っている。条例に向けて具体的な動きを示していないものの、地方議会から意見書が提出された県は10県に上った。要領・要綱など



主要農作物種子法 1952年に制定、2018年4月に廃止された。都道府県に米、麦、大豆の優良な品種を選定して生産、普及することを義務付けていた。農水省は、都道府県が自ら開発した品種を優先的に「奨励品種」に指定して公費で普及させており、種子開発への民間参入を阻害しているなどとして、17年の通常国会に同法の廃止法案を提出。自民党などの賛成多数で可決、成立した。

14市町の議会から条例を定める意見書が出ている。同県は「他県の状況や生産現場の声を踏まえて研究していく」(農業経営課)と強調。福岡県も、18年12月時点で県内全市町村の2割に当たる12市町議会から県への意見書が出ている。18年12月には栃木県上三川町議会、千葉県匝瑳市議会などが県に条例制定などを求めた。上三川町は「農家である議員の発案で国と県に要望書を出すことにした」(議会事務局)と説明。年明けも、種子法に関する意見書を市町村議会が出す動きが相次ぐ。福岡県小竹町議会は1月16日、宮城県栗原市議会は18日に県に意見書を出した。条例を既に制定した県は「他県から参考に教え

鶏卵生産調整を優先

経営安定 財源枯渇回避へ

日本養鶏協会が、今年度の財源が枯渇する恐れや生産者の経営安定が目前の安値を付けた。24日現在は133円と持ち直(185円)や生産調整事業発動の基準価格(1

今年度は補填事業が4〜8月に、生産調整事業は4月下旬〜6月下旬に発動した。このまま相場低迷が続く、手を打たなければ、「事業の財源が枯渇する」との懸念が生産現場に広がっていた。協会は16日の緊急理事

策では、従来通り生産調整事業を発動し、需給改善により価格回復を優先させる。その場合、10万羽以上の大規模生産者は価格補填事業の対象から外れる仕組みになっている。補填事業は相場動向を見通しながら2、3月

た上で確保した。残りの財源を1月分に充てる。ただ、生産調整に伴って大量の成鶏処理が発生し、作業が追い付かなくなる課題が残る。24日に農水省や日本成鶏処理流通協議会との3者会合を開き、協力して対応する

出品条件としては支配時点、父牛の脂肪の質の育種価が判明していることとする。過去4大会で続けて行った「若雄後代検定牛群」は廃止する。「種牛の部」では、地域の遺伝的多様性を維持・拡大することを狙いと

9 国産キウイが苦戦

出始めの国産キウイフルーツが苦戦している。小玉傾向などによって、1月中旬の販売量は前年より3割少ないが、日農平均価格は1キ、439円と前年並み。ニュージーランド産を中心に輸入物の在庫が潤沢で、国産の販売に水を差している。

13 子実コーン産地拡大

山口市で飼料用の子実トウモロコシ栽培が広がる。今年は最大で作付面積9畝を計画。西日本一の産地になる見通し。水稲と比べて作業時間が10分の1ほどで、農地維持にも役立つ。

5 東ア 持続可能な農業

「持続可能な農業」に向けて開かれた国際シンポから、東アジアの先進事例を報告する。2回連載。

3 農水4法案を提出へ

論説 現場の危機 受け止めよ
テレビ・小説7面

おはよう 名歌と名句

かたはらの地中にならぶ大根の白きを思ひ夜の道を行く
内藤明「虚空の橋」

大寒の夜、暗い夜道をひとり歩いてゆく。駅から自宅までは畑にそった道が続いている。畑には大根の葉っぱが規則正しく一列にならんでいる。ああ、この葉っぱの下、冷えた土の中には、真っ白な、つやつや

した白い大根が埋まっているのだ……。夜道を歩みながら作者はそんなふうに想像する。暗闇の中に浮かぶ柔らかな白い肌。そんななまめかしい映像が、ふと彼の脳裏をよぎったのかも知れない。(大辻隆弘)

日農INDEX 24日の主な取引

日農平均価格		価格	前市比	前年比	平年比
野菜主要14品目	(円/1kg)	133	▲7	▲50	87%
果実主要12品目	(円/1kg)	426	▲34	▲45	105%
切り花主要15品目	(円/1本)	-	-	-	-

野菜	価格	前市比	平年比	果実	価格	前市比	平年比
ダイコン	51	▲2	66%	普通温州ミカン	270	▲5	108%
ニンジン	84	▲5	80%	伊予カン	210	▲7	101%
ハクサイ	37	▲0	53%	リンゴ	268	▲10	95%